



災害から身を守る

台風は、地震と違い、事前に接近等を予測することができますので、正確で最新の情報を収集し、早期避難に役立てることが重要です。

日没前の明るい時間帯の早期避難、また、河川付近や山崖付近等の危険な場所近づかないなど、各個人が“自分の身は自分で守る”ために、これまでの災害を今一度見直し、防災に対する正しい知識を身につけて、災害に対する万全の備えをしておきましょう。

また、避難後の生活のためにも、最低3日分の非常用食料や、懐中電灯、電池、救急セットなどを非常用バッグに準備しておくことも重要です。

絶対にやめましょう

●用水路(田畑)の見回り

増水した用水路は道路との境目が分からなくなり、足を取られるおそれがあります。

●屋外・高所での作業

暴風・突風にあおられて転倒するおそれがあります。

〈問い合わせ〉 高森警察署 TEL(62)0110

なんでも

南部分署

水の事故にご用心！

これからの季節、海水浴やプール・川などで遊ぶ機会が多くなることに伴い、水の事故が多数発生します。

その中でも一番多い事故が「溺水(おぼれる事故)」です。

今回は「溺れた人を発見した時の対応・溺れてしまった人の基本動作」を紹介します。

【溺れてしまった人の基本動作】

- 1 背浮きで呼吸を確保
- 2 身近な浮遊体で、浮き時間を伸ばす

【発見者・救助者の基本動作】

- 1 ペットボトルや靴、鞆等、浮力のある物を相手に投げる
- 2 「子どもを見守る人」通報する人に分かれ消防119番に通報
- 3 溺れてしまった人に声がけを忘れない

【溺れてしまったときにやってはいけないこと】

- 1 水面から顔を出し、息を吸おうと試みる
- 2 手を挙げて助けを試みる

この二つをやってはいけない理由が、体が水面に対して垂直になり、水面下に沈みやすくなるためです。冷静な判断が難しくなる上、体が沈むことで水を吸い込んでしまい呼吸

困難となります。着衣のまま水難事故に遭遇するケースが多く、靴や洋服を身に着けた状態で泳ぐことは至難の業です。

そんな緊急時に思い出してほしいのが

おぼれた時の合言葉

「浮いて待て!!」

これらのことを覚えて、もしものことの出来事に対応できるようにしていきましょう！

合言葉は

“UITEMATE”

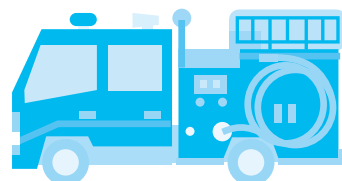
大きく息を吸い、空気を肺にためる。あごを上げて上を見ると呼吸しやすい

手は水面より下に。ペットボトルやかばんがあれば胸に抱える



手足を大の字に広げる

靴ははいたまま。軽い靴は浮き具代わりに



〈問い合わせ〉 阿蘇広域行政事務組合 消防本部 南部分署 TEL(62)9034 火事・救急 119